

## 『仲のよい友達』『おはなし』を読んで

弘前市立第三天成小学校 伊藤咲結

この本を選んだのは、一年生の時に学習した『おてがみ』がきっかけです。お手紙をもらつたことがないと悲しむがまくんのためにかえるくんが手紙を書き、一人でとどのを待つお話です。手紙を書いたといわずに、

「きつとくるよ。」

とほげまし続けるかえるくんのやさしさが心に残っていたので、他の話も読んでみたいと思いました。

一番心に残つたのは『おはなし』です。病気になつたかえるくんは、がまくんに

「おはなしをしてちようだい。」

とねだります。がまくんはかえるくんのために必死にお話を考えるのです。

心に残つた場面は、かえるくんのために必死にお話を作つてている場面です。家の前をぶらぶらしてみたり、さか立ちしたり、頭に水をかけたり、頭をかべにドシンドシンとぶつけていたところが印象的でした。もしもわたしががまくんで、

友達に同じ事をたのまれたらどうするでしょう。どんなお話をしたらいいか、あまり思いつかず、がまくんと同じようにしてしまふかもしれません。かえるくんに元気になつてほしい、じつとしていられないがまくんの気持ちが、とても伝わつてきました。ただお話を作ればよいのではなく、このお話でかえるくんの病気を追い出したかったのだと思ひます。

作者は、たとえ、がまくんがお話を作つてあげられなくても、かえるくんにがまくんの気持ちを伝わるよということを言いたかつたと思ひます。なぜなら、かえるくんは自分のために必死に考えてくれたことがうれしくて、がまくんが病気になつた時、今度は自分が、がまくんがしてくれたことを話して聞かせたのです。きっと、ぼくのためにこんなに一生けん命になつてくれてありがとうと言いたかつたから、「おはなし」にして返したのだと思ひます。

がまくんとかえるくんの物語は小さい子でも読めます。その中には、ほわつと心が温かくなる場面がたくさんあります。

がまくんとかえるくんの本を全部読んでみると、主人公の二人はとても仲のよい友達だということが分かります。わたしにも友達がいます。がまくんとかえるくんのようにいつも二人でいっしょにいるというよりは、たくさんの仲のよい友達がいます。一人がたくさんになつても、がまくんとかえるくんのよう、おたがいに助け合つて、みんな仲よくした

いとしました。

そのためには、相手のことを大切に思うことが大事だとうことも分かりました。自分がこうしてあげたいということではなく、友達はどうしてほしいのかなどということを考え、友達がこまついたら、力になれる人になりたいと思想います。